

岡本兵松（おかもとひょうまつ）

文政4年（1821）北大浜村鶴ヶ崎の岡本篠松の長男として生まれ、幼名を篠吉といった。家はみそ製造業や回船問屋を営む岡本兵右衛門の分家で南部屋と言ひ、沼津藩の御用達を勤めていた。

嘉永2年（1849）に安城ヶ原の荒地である石井地区を買い取り、開墾に取りかかった。ところが夏の日照りと水不足で作物が枯れ、用水路の必要を痛感した。

明治元年（1868）維新の世となり、京都民政局に弥厚の用水計画を継承して開削の許可を願ひ出た。明治2年鶴ヶ崎の家財を売り払って石井新田に転居し、その戸長を勤めた。

明治5年（1872）に廃藩置県で岡崎に設けられた額田県の役所に、伊予田与八郎と連名で、明治用水の開削設計を立てて許可を請願した。明治8年に用水路開削測量細密図明細書に村人の許可を得ようとしたところ、反村する農民が兵松の家を襲撃する事件が起さ、心労のため病に倒れた。

明治11年（1878）に明治用水開削の許可がおり、翌12年用水路の開削の大事業に着手した。明治13年に明治用水竣工式が盛大に挙行された。兵松や村人の喜びは大きかった。ところがこの年の夏、再び病に倒れて愛知病院に入院した。時の明治政府を代表して、農商務大臣が見舞いに訪れた。

明治16年（1883）に病が快復して退院すると、自宅を開放して私塾を開き、村の青少年の教育を行った。その年の秋、政府は兵松の業績に対して藍綬褒章を贈った。俳号を大林居といい安城に2つの句碑がある。

明治30年（1897）に76年の苦難に満ちた生涯を閉じた。明治32年（1899）に明治用水開削の父岡本兵松の功績を称えて、石井新田村に立派な記念碑が建てられ、明治川神社に合祀された。さらに昭和25年（1950）明治用水の利用者たちは、石井村に銅像を建設してその徳を顕彰した。

（碧南市発行「碧南辞典」より）



岡本兵松の銅像